武　一　中

令和 8 年 10 月 30 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R8－13 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

「具体的と抽象的」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

10/26 朝礼の話の感想を 16 人が書いてくれました。ありがとうございました。考えを共有しましょう。

●確かに今まで何かに夢中になっていたら近く（現実、具体的）しか見ることができませんでした。これからは未来などの抽象的を意識していきたいです。

○具体的と抽象的は、別々のものを指しているのではなく、同じものの「見方」なのだとわかった。「がんばろう（抽象）」という目標があるから「ノートを開く（具体）」に意味が生まれ、「ノートを開く（具体）」を積み重ねるから「がんばった（抽象）」という結果になる。両方そろって初めて意味を成すという点で、2 つはそっくりな運命共同体なのだ。

●「理論（遠く）」ばかり考えて動かなくなっても上手くいかないし、「実践（近く）」ばかりで何も考えずに動き回っても上手くいかない。まずは、「いま自分がやっていることは何につながっているんだろう？」と、ときどき遠くを見つめるクセをつけたいと思う。

○今日の「具体的と抽象的」というお話は、すごく身近にあるもので考えられるところが多かったり、自分でも(こういうのかな？)と想像できることがたくさんあったので、とてもわかり易かったです。「具体的と抽象的」のお話だけでなく、校長先生自らが考えたテーマの似ているものなども取り上げられていて、とてもわかり易く聞くことができました。今日も、豆知識になる面白いお話をありがとうございました。

●遠くの目標を見ているだけでは手前にある基礎が見えず、手前だけを見ていると遠くの目標が見えなくなってしまうので、近くにあるものと遠くにあるものをバランスを保ちながら見ることが大切だということに共感しました。受験勉強にもつながるような具体的と抽象的の例だなと感じました。

○どこを見て、進むかによって、道は違うということがわかった

●高校でも、具体と抽象的のどちらかに偏らずに両方を使い分けて頑張っていきたいです。

○理論と実践の話で、私は理科の総合テストで、昼夜風など、なかなか実践しにくい理論の部分が抜けていました。実践に代替できるものがあるとすれば、例を見てみたり理由を知ったり、あわよくば博物館に行ってみたりすることが挙げられると思いました。

●校長先生の話を聞いて、大きな目的を達成するためには足元の小さなやるべきことも大切だし、今やるべきことだけを考えると大きな目的にたどり着かない可能性があるから、どちらもちょうど良いバランスで大切にしたいと考えた。

○周りを見ることは大切だなと思った。

●具体と抽象は対義語のようで共通点がないように思ったが意外と共通点があることに驚いた

○抽象的と、具体的の違いに気づけました。

●具体と抽象のちょうどよい間をとってバランスよくすることが大切だと思った。

○この先、自分がどうなっていくのかは不確定だし予測もできないけれど、現在を見るだけでなく、少しずつこの先のことを考えていきたいなと思いました。

●何かに悩んだりしたときは、先に抽象的に考えてしまわず、具体的に考えられるようにしてみようと思いました。

○短い時間だったが学べた。

●とてもためになった。

＜津口先生が２年Ｃ組の学級通信に取り上げてくれました＞

許可していただき、記事をここに転記します。津口先生が受け止めてくれた内容を皆さんも共有してください。

○校長先生の話を聴いて～「具体的と抽象的」「思い○○」～

先日の朝礼で、校長先生から「具体的」と「抽象的」についてのお話がありました。その中で印象に残ったのが、「思いやりの考えがあっても、行動がなければ人には届かない」という言葉です。

人の「思い」は目で見ることはできません。しかし、そんな「思い」を形にするのが「思いやり」や、「思いきり」なのではないかと私は思います。相手を大切にしたいという思いを、声かけや手助けという行動に表すこと。そして、何かに挑戦したいという思いを、失敗を恐れずに一歩踏み出す姿で表すこと。そこに、思いが形になるということの意味があるのではないでしょうか。

クラス目標である「２Ｃチアフルチャレンジ（陽気な挑戦）」。私は仲間を思いやる気持ちが行動に表れ、何事にも思いきり挑戦する。そんな姿が見られるクラスなんじゃないかなぁと考えながら、校長先生のお話を聴いていました。

～・～

皆さんは、算数・数学を勉強する中で「具体的」から「抽象的」に考える方法を進めてきました。「リンゴ２個と３個合わせる」を考える時にリンゴの絵🍎🍎、🍎🍎🍎から、りんごを意味する○○、○○○にして、そして数字の式２＋３と考えを進めました。中学生になって、もっと「抽象的」な「一般化」に考えを進め、具体的な２や３からどんな数字でも入るａやｂの文字を使い始めました。文字の分かりにくさは、数字や絵にもどれば理解しやすくなります。この行ったり来たりが大切だと思っています。